



2023年3月期第1四半期

決算説明補足資料

2022年8月12日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



報告セグメントの名称について、今後の事業展開などを考慮し、以下のとおり変更いたします。

なお、各セグメントの事業内容に変更はございません。

本補足資料は、変更後の報告セグメントの名称にて記載しております。

(現行)	(変更後)
海外通信事業	国際通信事業
フィリピン国内通信事業	フィリピン通信事業
国内通信事業	国内通信事業
医療・美容事業	メディカル&ヘルスケア事業
その他	その他

四半期決算概要

売上高：2,823百万円 営業利益：828百万円

事業状況

事業は、順調に拡大している。

C2C回線など自社長期管理・保有回線の順調な販売とIRU契約案件の入金により国際通信事業が大幅な増収・増益を達成。

レーシック手術が増加しているメディカル&ヘルスケア事業も好調に推移。

今期業績予想

売上高：12,000百万円 営業利益：2,920百万円

※変更なし

1 | 2023年3月期第1四半期 決算概要

【2023年3月期第1四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	2022年3月期				2023年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	通期予想	進捗率	
売上高	1,961	2,115	2,349	4,302	2,823	862 44.0%	12,000	23.5%	
営業利益	370	458	595	1,032	828	457 123.5%	2,920	28.4%	
経常利益	381	439	659	1,417	1,458	1,077 282.7%	2,820	51.7%	
親会社株主に帰属する当期純利益	218	300	436	933	1,027	808 370.3%	1,700	60.4%	

2023年3月期第1四半期 実績分析

- **売上高**：国際通信事業がIRU案件の入金などにより大幅な増収。メディカル&ヘルスケア事業なども増収となったことにより、前年同期比44.0%増加。
- **営業利益**：国際通信事業が大幅に増益となり、メディカル&ヘルスケア事業なども増益になったことにより、前年同期比123.5%増加。
- **経常利益**：営業利益の増益に加え、6月末ドル円相場が136.69円と円安になったことによる為替差益632百万円を計上（前年同期は11百万円為替差益を計上）したことにより、前年同期比282.7%増加。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**：経常利益の増加により前年同期比370.3%増加。

■ 国際通信事業

(単位：百万円)

	2022/3	1 Q	2023/3	1 Q	前年同期比
売上高	382		1,191		+809 (+211.6%)
営業利益	43		392		+348 (+792.3%)
利益率	11.5%		32.9%		—

国際通信回線C2C回線の提供が順調に推移し、IRU契約案件の入金による売上計上がなされたことにより、大幅な増収、増益となる。

■ フィリピン通信事業

(単位：百万円)

	2022/3	1 Q	2023/3	1 Q	前年同期比
売上高	301		243		▲57 (▲19.2%)
営業利益	87		121		+34 (+39.9%)
利益率	28.9%		50.0%		—

コロナウイルス感染症の影響により法人向けインターネット接続サービスの新規契約が低調に推移し、減収となる。一方、国際通信回線C2C回線提供に伴うフィリピン国内回線の提供による利益の増加があり、増益となる。

■ 国内通信事業

(単位：百万円)

	2022/3 1Q	2023/3 1Q	前年同期比
売上高	1,019	1,020	+1 (+0.1%)
営業利益	158	183	+24 (+15.5%)
利益率	15.6%	18.0%	-

AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンター向けサービスが好調に推移したことにより、利益が増加。

■ メディカル&ヘルスケア事業

(単位：百万円)

	2022/3 1Q	2023/3 1Q	前年同期比
売上高	246	359	+113 (+46.0%)
営業利益	83	137	+54 (+65.0%)
利益率	33.8%	38.2%	-

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営を実施することにより、引き続きレシーブの提供が拡大し、増収・増益となる。

■その他（旧 在留フィリピン人関連事業）

（単位：百万円）

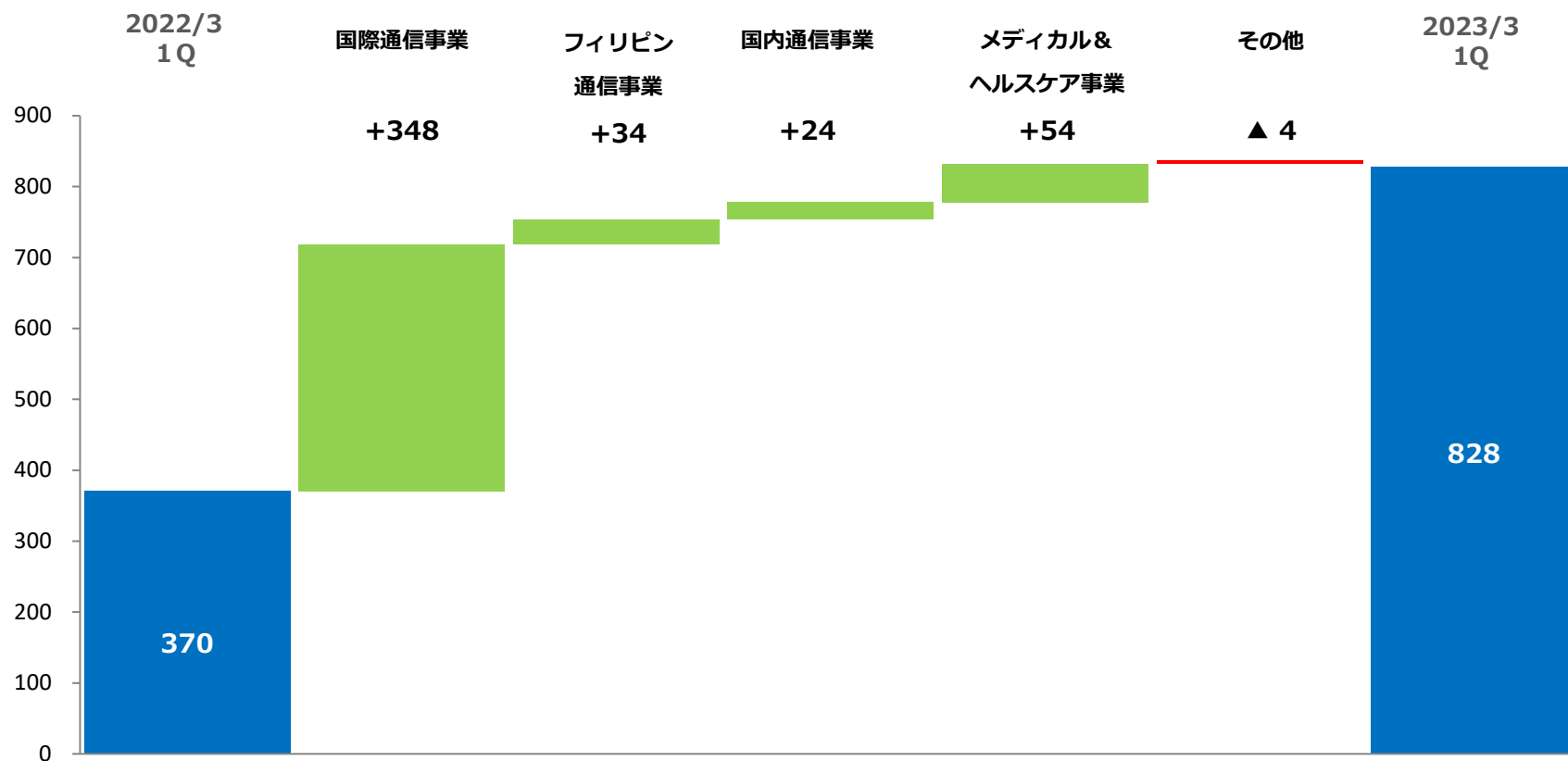
	2022/3	1 Q	2023/3	1 Q	前年同期比
売上高	11		7		▲3（▲31.6%）
営業利益	▲2		▲6		▲4（-）
利益率	-		-		-

フィリピンのコールセンターから、在留フィリピンの方向けに送金斡旋などの勧誘を実施。

営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業が大きく増益となり、メディカル&ヘルスケア事業など好調に推移し、大幅な増益



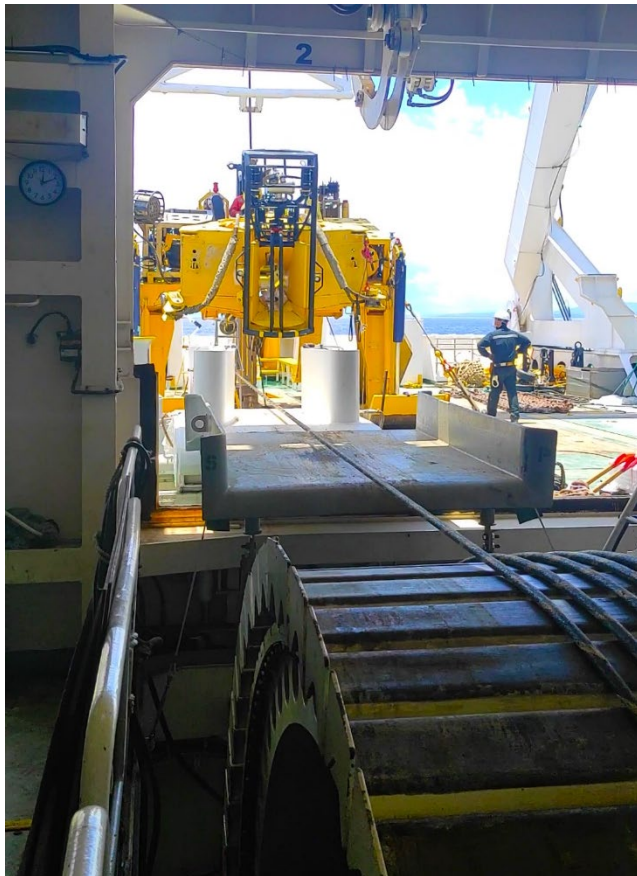
連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2022年3月期末	2023年3月期 1Q	増減		2022年3月期末	2023年3月期 1Q	増減
流動資産	12,023	10,771	▲ 1,252	流動負債	7,865	6,710	▲ 1,154
現金及び預金	5,778	4,960	▲ 818	買掛金	1,032	1,079	46
売掛金	2,069	2,009	▲ 59	借入金	1,845	2,068	222
リース投資資産	3,340	2,945	▲ 395	その他	4,986	3,562	▲ 1,423
その他	834	856	21	固定負債	1,418	1,308	▲ 110
				長期借入金	1,203	1,090	▲ 113
				その他	214	217	2
固定資産	6,397	7,620	1,223	負債合計	9,283	8,018	▲ 1,265
有形固定資産	3,776	4,563	787	純資産	9,136	10,373	1,237
無形固定資産	1,721	1,838	116	株主資本	7,131	7,848	717
投資その他資産	899	1,219	319	累積包括利益	178	451	272
				新株予約権	191	193	2
				非支配株主持分	1,635	1,880	244
資産合計	18,420	18,392	▲ 28	負債・純資産合計	18,420	18,392	▲ 28

2 | 2023年3月期第1四半期 Topics

2022年7月、当社子会社のInfiniVAN, Inc. は、フィリピンの通信事業者Eastern Telecommunications Philippines, Inc. およびGlobe Telecom, Inc.と共同でフィリピン国内海底ケーブルシステムの建設を開始。

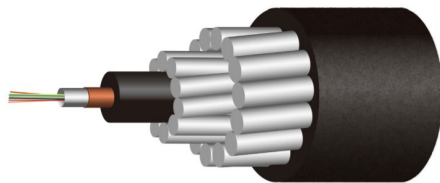


- 昨年12月に決定したフィリピン国内海底ケーブルシステム（Philippine Domestic Submarine Cable Network。以下「PDSCN」という。）の建設について2022年7月に開始。
- PDSCNは、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内を縦貫する回線で、その工事区間は24区間、ケーブルの長さは約2,500Km、人口カバー率は96%、来年4月の工事終了予定。
- この回線の敷設により、フィリピン国内での事業活動地域が拡大し、フィリピンの通信事業者やCATV事業者だけでなく、OTT事業者などとの取引の拡大を図る。

フィリピン国内海底ケーブルシステム (PDSCN)



※イラスト上の回線のルートは、実際のものとは異なります。



※海底ケーブルのイメージ (ダブルアーマードケーブル)

項目	内容
体制	InfiniVAN, Inc.とフィリピン国内の大手通信事業者2社 (Globe Telecom, Inc.およびEastern Telecommunications Philippines, Inc.) との共同建設
敷設回線	ケーブルの長さ : 約2,500km 敷設区間 : 24 保証期間 : 25年間 ※海底ケーブルシステムのみ
敷設業者	国際ケーブル・シップ株式会社 (KDDI株式会社の子会社)
投資額	総投資額 : 142百万米ドル (原則3社均等) ※別途、伝送装置やInfiniVAN単独の陸上部分の費用を合計すると、InfiniVANの投資額合計は約63百万米ドル (約85億円) ※自己資金及び金融機関からの借り入れで充当する予定
スケジュール	2022年12月 : 第一工期区間の完成予定 (陸上部分の準備が完了し次第供用を開始予定) 2023年4月から : 全区間の供用予定
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 一つのフィリピン国内の海底ケーブルシステムとしては最大規模 当社グループが構想するフィリピン国内のCDNの構築に照らした重要な進捗であり、国内の通信回線網の有用性が格段に向上 従来からの方針通り、当社グループ取得分の回線設備の一部を開通後速やかに長期間にわたって提供するための相手 (OTT、通信事業者、CATV事業者) の確保を進める

2022年7月、会社分割により、株式会社アイ・ピー・エス・プロ（IPSP）を設立。IPSPは、新しい通信ソリューションの提供を行ってまいります。

当社の国内通信事業については、日本の通信業界において、「オープンドア」を実現し、新しい通信ソリューションを提供していくため、2022年7月1日に会社分割にて、株式会社アイ・ピー・エス・プロ（所在地：東京都中央区、代表者：代表取締役社長 伊藤良光）を設立。以下のコンセプトのサービスの提供を検討してまいります。



BtoBコミュニケーションのクラウドプラットフォーム（CPaaS）化

電話も、SNSも、動画も、チャットも、メールも全部済ませられる、シニアから若手までの全世代顧客とのコミュニケーションに対応したプラットフォームの提供。



キャリアフリーな新概念次世代IX（インターネット接続点）の創設

特定の通信事業者に依存や限定をしない、中立的で使い勝手の良いインターネットとの接続点を創設。

フィリピンの医療インフラの強化を図るため、人間ドック／健診センター運営を計画。

2022年6月に人間ドック／健診センターを運営する新会社を設立。

2023年3月の開業に向け、準備中。

会社名	Shinagawa Healthcare Solutions Corporation
所在地	フィリピン、タギッグ市
代表者	President 上森 雅子 (当社専務取締役、Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC) President)
事業内容	予防医療の提供、人間ドック／健診センターの運営
資本金	3.5億フィリピンペソ
出資割合	SLACC 50%、 当社 40%、 その他個人 10%
開業	2023年3月 (予定)



会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

国際通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供、フィリピン国内通信回線の敷設・提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

メディカル&ヘルスケア事業：フィリピンでのレーシック手術などの提供

グループ企業

主な連結子会社

株式会社アイ・ピー・エス・プロ（2022年7月1日会社分割により設立）

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331